

(左)土屋春代さん (右)新田史実子さん
ネパールの生産者サビナさんと一緒に
=「おいものせなか」



100円ショップ、格安ジーンズ……。様々な商品が、かつては考えられないほどの低価格で売られています。この低価格の背景には、途上国の生産者が苦しむ仕組みがあります。この不公正な仕組みを私たちの買い物から見直そうという「フェアトレード」の動きが広まりつつあります。岩手県国際交流協会は「フェアトレード・コミュニティいわてプロジェクト」として2009年度、年間を通してフェアトレードを通じた国際協力のあり方を探ってきました。今回はその中から、ネパールの生産者を支援するフェアトレード団体(有)ネパリ・バザール(神奈川県横浜市)の土屋春代さん、花巻でフェアトレードの専門店を開いている新田史実子さんに、フェアトレードを通じた国際協力への思いや、私たち岩手県民にとってのフェアトレードについて語っていただきました。

“いま、フェアトレードを考える” —自分が買う品物についての「認識」と「覚悟」を。

りと自覚・認識し、進める覚悟が必要だと思えます。

フェアトレードと地域の共存

土屋…ネパールだけではなく、国内の弱い立場の人にもできるだけ仕事を作りたいと思っています。フェアトレードのクッキーは神奈川の福祉施設で作っています。普段は支援を受ける側の障害者ですが、ネパールの支援になっていくことで誇りを持ち、生き生きとしています。ヘナの袋詰めをしている人が、お店に並んでいる商品を見て、「僕のヘナが売れなかったらどうしよう」と気にかけてくれます。最初の頃は自己紹介ができなかった人が、いまは自分の携わった商品のPRをします。収入面でも、毎月安定して給与を出せるようになり、年2回のボーナスも出せるようになったといえます。

岩手のフェアトレード

土屋…岩手の手作業の工房を見て、とても感銘を受けました。手作りの伝統、良いものに触れる機会が岩手にはあります。こういう地元のもの大切にしたい。岩手の人たちには良いものを見る目が備わっているから、フェアトレードのものを受け入れてもらえると思います。

土屋…目の前に学校があるのに親に収入がないために学校に通えないネパールの子どもたちを助けたいと、ネパールで出会った人たちが作った製品を日本で売り始めました。日本で買ってもらうには、日本人が欲しい商品を作らなくてはなりません。しかし品質への要求が高い日本のマーケットに合わせるの大変です。現場で働いている人に理解してもらうのは苦労しました。「そんなに完璧なものがつくれるわけがない」と言う現場の人たちとぶつかりながら、商品の品質を高めてきました。

ネパールはいま生活状況が厳しく、18時間の停電、水も5日に1回だけということもあります。労働組合の要求も強く、操業していると利益どころか赤字になる。身に危険も迫り、周囲の工場もだいたい閉鎖に追い込まれています。食料品も値上がり激しく、貧富の格差は広がるばかりです。さいわいネパリ・バザールが繋がっている人たちは元気で、確実に生活が良くなっています。またネパリ・バザールを通して、仕事やお給料だけでなく、生き方など、お金以外のものもたくさん得ていると言ってくれています。現場の女性たちの表情は自信にあふれ、内から輝いています。目を見て話せなかった人が、いまは堂々と意見交換をし、私との間違いを指摘します。大した成長ぶりです。

新田…16年前に岩手でお店を始めた頃は、フェアトレードの情報もあまりありませんでした。商品を買うことが現地の人たちの支援になるということ、私たち自身の買い方を見直すということがなかなか理解されませんでした。支援の名を借りてビジネスしているのと誤解され、悔しい思いもしました。公共の施設を借りられなかったこともあります。

土屋…首都圏でも、当時は同じような反応でした。売っているセーターを見て、「現地は安いのに儲け過ぎだ」と非難する人もいました。また十分に説明したにもかかわらず、「ネパールに浄財を寄付」と新聞記事に書かれ、がっかりしたこともあります。対等なビジネスで途上国を支援すると言っても、頭が受け付けなかったのでしょうか。今は自治体もメディアも協力的です。

過渡期にあるフェアトレード

土屋…メディアが好意的に伝える一方で、企業が儲けるための付加価値として利用し、フェアトレードが変質してしまうのではないかと。生産者の生活にきちんと還元されるだろうか、また安直な取り組みによってフェアトレード自体が無意味だと評されることはないだろうかと心配しています。ひとりひとりを見ていった

新田…地域のお店は、お客様ひとりひとりに商品を手渡ししながら、いろんな背景のこと、社会問題のことを伝える役割を果たしています。福祉、農業、環境と、それぞれが分かれて専門的になってしまっていますが、求められているのは生活にも教育にも環境にも農業にも福祉にもいいものです。フェアトレードは、これらを意識して生活を見直すひとつのきっかけです。岩手は自然が豊かで、農産物も海の幸も新鮮なものが手に入るし、伝統に根ざした生活文化もとても豊か。環境や食べ物物の安全性を気にしなくても十分に生活ができる。一方で、自分の生活を守るのに手いっぱい、海の向こうの貧困で苦しんでいる人たちのことまでなかなか想像力が働きません。私たちがなぜこんなに世界中から安いものを手に入れられるかということに疑問を持ち、みんなが幸せになることに意識を働かせてほしい。まずは紅茶やコーヒーからはじめて、洋服も手織りのもので夏涼しく冬暖かくと、フェアトレードを通して世界を見て、自分のライフスタイルをより良いものに変えていくことだと思います。

土屋…日本人が持っていた良さがだんだんなくなってきた、人と人のつながりが薄れて無関心になっていきます。心の病を持つ人も増えていきます。いま必要なのは、もう一度人と人のつながりを作ることです。日本人だけじゃなく世界中と。フェアトレードはいいきっかけになるでしょう。

土屋春代さん

[プロフィール]

(有)ネパリ・バザール代表。ネパールの子どもたちへの教育支援をしている中で、安定した収入をもたらすことこそが最大の課題と感じ、日本でネパールの製品を販売するため(有)ネパリ・バザールを設立。ネパールの人たちへの誠実かつ着実な支援を行っている。
(有)ネパリ・バザール <http://www.nbazaro.org/>

新田史実子さん

[プロフィール]

エコロジー&フェアトレード「おいものせなか」代表。「東北に「おいものせなか」あり」といわれるフェアトレードの草分け的ショップ。
おいものせなか http://www.geocities.jp/oimono_senaka/



フェアトレードで生産された原料を使って作られたクッキーやケーキ



フェアトレードの商品でコーディネートしたファッションショー



協会からの

平成22年度、当協会は、次に掲げる基本方針の下に、引き続き国際交流・

〈基本方針〉

- 近年、在住外国人の多様化、経済社会情勢の変化等により、県内においても、どのようにして在住外国人と共生していくかが地域の活性化にとって重要な課題となっておりますが、国の「地域における多文化共生推進プラン」や県の「多文化共生推進プラン」等を踏まえながら、当協会としても多文化共生社会の形成に向けて取り組んでいくこととします。
- 協会の財政・運営環境は厳しい状況にありますが、事業評価等による事業の見直しや業務の効率化に努めるとともに、事業を効果的に進めるため、関係団体等との協働・連携を深めることとします。
- 当協会は昨年度、協会設立20周年の節目を迎え、更なる発展を期したところですが、新しい公益法人制度への移行に向けて着実に取り組むとともに、現行の「国際交流・協力推進指針」が目標年度を迎えることから、新たな指針の策定を進めることとします。

情報等の収集・提供

- 国際交流・協力・多文化共生に関する図書・情報等の収集・提供
- 国際交流情報紙「jien go」の発行
日本語、英語及び中国語で隔月発行。
- 機関誌「いわて国際交流」の発行
年1回発行。英語、中国語及び韓国語版は協会ホームページで提供。
- インターネットによる情報提供
多言語により協会ホームページや携帯電話ホームページ、メールマガジン「いわてプラネット」、メールマガジンを通じて情報を発信。

国際交流センターの運営

- 国際交流センターの業務の推進
本県の国際交流・協力・多文化共生の活動拠点施設である国際交流センターの業務を実施。

調査研究

- 「国際交流・協力・多文化共生推進指針(仮称)」の策定(新規)
当協会の新たな指針を策定。
- 事業年報の作成
- 事業評価の実施
- 他県等における事業の調査

団体等との連携・支援

- 国際交流団体等との連携
県内の国際交流団体等のネットワーク形成、研修など。
- 国際交流団体等の支援
県内の国際交流団体等の活動支援助成など。

- センター運営サポーターの登録と活用
利用者に対してきめ細かなサービスを提供するため、センター運営サポーターを活用。

お知らせ



国際協力・多文化共生社会形成のための事業を積極的に展開します。

国際交流(理解)・協力の推進

- いわてグローバルセミナー(仮称)の開催(新規)
岩手の国際化・多文化共生の歴史と現状についての理解を深め、本県の今後の国際交流・協力・多文化共生について考え、推進していく契機とするため、セミナーを開催。
- 国際理解ワークショップの開催等
- いわて国際化人材活用事業
多様な分野の人材を登録し、各種講座の講師、翻訳・通訳等としての活動機会の提供。
- 外国文化紹介講師派遣
外国文化理解に関する行事等に、国際交流員やいわて留学生大使等を派遣。
- 外国人との交流会「ちゃっとランド」の開催
県民と外国人の交流会を定期的に開催。
- 「2010ワン・ワールド・フェスタ inいわて」の開催
外国人や関係団体等と連携・協働して、国際交流センター及び県内地域で開催。
- ホストファミリーの登録と活動機会の提供
市町村協会や団体と連携し、活動の機会を提供。受入れ前に初歩の語学講座を開催。
- 国際協力スタディツアーの実施(新規)
青少年等を対象として、ベトナムでの青年海外協力隊員の活動現場を体験学習。
- 「フェアトレードコミュニティinいわて」の実施
「2010世界フェアトレードデイinいわて」の開催やフェアトレードを通じた文化紹介など。
- 海外研修員の受入
- 大学生インターンシップ・プログラム

在住外国人の自立支援・共生の推進

- 外国人相談の実施
国際交流センターに外国人相談窓口を設置し、中国語等での対応が可能な専門の相談員等を配置。専門機関との連携により定期的な相談日を設定。地域の日本語教室等を巡回し、相談対応や学習支援等を実施(新規)。
- 在住外国人ネットワーク支援
在住外国人ネットワークの活動に対する支援など。
- 日本語サポーターの登録・育成と活用
日本語を学びたい在住外国人に日本語サポーターを紹介。地域での日本語教室開設に向けた研修会を開催。日本語サポーターの実践者研修会を開催。
- 多言語サポーターの登録・育成と活用
在住外国人が安心して生活できるよう、通訳等の支援を行う多言語サポーターを紹介。多言語サポーターの研修会を開催。
- 在住外国人のためのハンドブックなどの情報提供
- 私費外国人留学生支援
奨学金を支給し、「いわて留学生大使」に委嘱。
- 災害時多言語支援センター設置訓練(新規)
県が行う防災訓練に併せて、多言語支援センターの設置訓練を実施。

岩手県国際交流協会発行ハンドブック

●外国人児童・生徒のための就学支援ハンドブック

外国人児童の保護者が日本の教育制度を理解し、また受け入れ側の学校が外国人児童の母国(中国、フィリピン、ブラジル、韓国)の教育体制や文化について理解を深めていただくためのハンドブックです。

●いわて多文化子どもの学習支援ハンドブック

外国人児童の背景、受け入れに際して役立つ情報、個別の支援事例など、外国人児童受け入れ支援をする方々に参考となるハンドブックです。

●フェアトレード・ハンドブック『フェアトレード手帖』

平成21年度に当協会が実施した「フェアトレードコミュニティinいわてプロジェクト」の取り組みのほか、県内のフェアトレード団体やフェアトレードの実践例、フェアトレード商品をつかった料理レシピなどフェアトレード情報が満載です。



これらのハンドブックをご希望の方は、当協会までお問い合わせください。